

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ナガサキダイガク 国立大学法人 長崎大学									
フリガナ大学の名称	ナガサキダイガクダイガクイン 長崎大学大学院 [Nagasaki University Graduate School]									
大学本部の位置	長崎県長崎市文教町1番14号									
大学の目的	長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献するとの理念に基づき、教育研究の高度化及び個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な知の情報発信拠点であり続けるとともに、地域及び国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	21世紀の「多文化社会的状況」がもたらす諸問題について、多文化社会学に関する高度に専門的な知識に基づき、「問題本質の見極め」と「問題解決に向けた多様な解の提示」を目指し、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人等を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	多文化社会学研究科 (Graduate School of Global Humanities and Social Sciences)	年	人	年次人	人		年月 第年次	長崎県長崎市文教町1番14号 【基礎となる学部等】 ・多文化社会学部 ・多文化社会学科 ・多文化社会学研究科 ・多文化社会学専攻 (修士課程) 14条特例の実施		
	多文化社会学専攻 (Department of Global Humanities and Social Sciences)	3	3	—	9	博士(学術) (Doctor of Philosophy)	令和2年4月 第1年次			
	計		3	—	9					
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	【学部の設置】 情報データ科学部 情報データ科学科 (110) (平成31年4月 事前伺い) 【収容定員の変更】 工学部 工学科 [定員減] (△50) (令和2年4月) 教育学部 学校教育教員養成課程 [定員減] (△60) (令和2年4月) 【課程名称の変更】 多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 修士課程 → 博士前期課程 (令和2年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実習	計					
	多文化社会学研究科 多文化社会学専攻	2科目	3科目	0科目	5科目	16単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 (博士後期課程)	16 (16)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	0 (0)	
	分	情報データ科学部 情報データ科学科	10 (11)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	25 (26)	0 (0)	279 (279)	
	計	26 (27)	28 (28)	0 (0)	6 (6)	60 (61)	0 (0)	— (—)		

教 員	既	【 研究科 】							
		多文化社会学研究科 多文化社会学専攻（修士課程）	14 (14)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	12 (12)
		教育学研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）	16 (16)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	32 (32)	0 (0)	10 (10)
		経済学研究科 経済経営政策専攻（博士前期課程）	21 (21)	24 (24)	0 (0)	2 (2)	47 (47)	0 (0)	1 (1)
		経営意思決定専攻（博士後期課程）	13 (13)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 総合工学専攻（博士前期課程）	30 (30)	42 (42)	0 (0)	18 (18)	90 (90)	0 (0)	24 (24)
		生産システム工学専攻（博士後期課程）	20 (20)	35 (35)	0 (0)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	2 (2)
		グリーンシステム創成科学専攻（5年一貫制博士課程）	10 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	1 (1)
		水産・環境科学総合研究科 水産学専攻（博士前期課程）	26 (26)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	47 (47)	0 (0)	0 (0)
		環境科学専攻（博士前期課程）	20 (20)	23 (23)	0 (0)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	0 (0)
組	設	環境海洋資源学専攻（博士後期課程）	31 (31)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	67 (67)	0 (0)	14 (14)
		海洋フィールド生命科学専攻（5年一貫制博士課程）	14 (14)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	15 (15)
		医歯薬学総合研究科 保健学専攻（修士課程）	16 (18)	12 (13)	0 (0)	8 (8)	36 (39)	0 (0)	14 (14)
		災害・被災く医療科学共同専攻（修士課程）	5 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	7 (8)	0 (0)	6 (6)
		医療科学専攻（博士課程）	65 (75)	46 (49)	13 (13)	11 (12)	135 (149)	0 (0)	23 (23)
		新興感染症病態制御学系専攻（博士課程）	16 (18)	12 (13)	2 (2)	5 (5)	35 (38)	0 (0)	1 (1)
		放射線医療科学専攻（博士課程）	4 (5)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	8 (9)	0 (0)	1 (1)
		先進予防医学共同専攻（博士課程）	7 (7)	4 (4)	5 (5)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	4 (4)
		生命薬科学専攻（博士前期課程）	12 (12)	16 (16)	0 (0)	5 (5)	33 (33)	0 (0)	22 (22)
		生命薬科学専攻（博士後期課程）	8 (8)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
概	分	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻（博士前期課程）	24 (28)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	30 (34)	0 (0)	26 (26)
		グローバルヘルス専攻（博士後期課程）	7 (9)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	20 (22)	0 (0)	0 (0)
		長崎大学ーロンドン大学衛生・熱帯医学 大学院国際連携グローバルヘルス専攻 （博士後期課程）	7 (9)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	20 (22)	0 (0)	0 (0)
		計	386 (410)	355 (360)	20 (20)	76 (77)	837 (867)	0 (0)	— (—)
		合計	412 (437)	383 (388)	20 (20)	82 (83)	897 (928)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		472 (472)	570 (570)	1,042 (1,042)					
	技 術 職 員		104 (104)	59 (59)	163 (163)					
	図 書 館 専 門 職 員		9 (9)	- (-)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		1,314 (1,314)	749 (749)	2,063 (2,063)					
計		1,899 (1,899)	1,378 (1,378)	3,277 (3,277)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	274,716 m ²	0 m ²	0 m ²	274,716 m ²	借用面積106m ²				
	運 動 場 用 地	101,030 m ²	12,748 m ²	0 m ²	113,778 m ²					
	小 計	375,746 m ²	12,748 m ²	0 m ²	388,494 m ²					
	そ の 他	167,053 m ²	107,538 m ²	0 m ²	274,591 m ²	借用面積3,190m ²				
合 計	542,799 m ²	120,286 m ²	0 m ²	663,085 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		182,273 m ² (182,273 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	182,273 m ² (182,273 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	100 室	243 室	487 室	26 室 (補助職員 人)	6 室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		多文化社会学研究科 多文化社会学専攻		35 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	(大学全体の共用分) 図書 1,050,000 [305,000] (1,036,000 [301,000]) 視聴覚資料 7,050 (6,780)		
	多文化社会学研究科 多文化社会学専攻	1,050,000 [305,000] (1,036,000 [301,000])	25,400 [7,500] (25,100 [7,400])	10,700 [9,800] (12,900 [11,900])	7,050 (6,780)	13,075 (13,075)	78 (78)			
	計	1,050,000 [305,000] (1,036,000 [301,000])	25,400 [7,500] (25,100 [7,400])	10,700 [9,800] (12,900 [11,900])	7,050 (6,780)	13,075 (13,075)	78 (78)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				大学全体		
		10,735 m ²	1,316 席	964,055 冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
		12,541m ²	弓道場, テニスコート, ハンドボールコート, プール等							
経 費 積 及 び 方 法 の 概 要	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
		共同研究費等		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
		図書購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	設備購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	長崎大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	【 学 部 】	年	人	年次 人	人		倍			
	多文化社会学部 多文化社会学科	4	100	-	400	学士(多文化社会学)	1.04	平成26年度	長崎市文教町1番14号	
	教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	-	960	学士(教育学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1番14号	
	経済学部 総合経済学科 昼間コース 夜間主コース	4	265	3年次 10	1,080	学士(経済学)	1.04	平成9年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	4	60	5	250						
医学部 医学科 保健学科	6	120	2年次 5	735	学士(医学)	1.00	昭和24年度	長崎市坂本1丁目12番4号		
4	106	3年次 10	444	学士(看護学) 学士(保健学)	1.00	平成14年度	長崎市坂本1丁目7番1号			

既設 大学等 の 状 況	歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士(歯学)	1.00	昭和54年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
	薬学部 薬学科	6	40	—	240	学士(薬学)	1.02	平成18年度	長崎文教町1番14号	
	薬科学科	4	40	—	160	学士(薬科学)	1.03	昭和61年度		
	工学部 工学科	4	380	—	1,520	学士(工学)	1.03	平成23年度	長崎文教町1番14号	
	環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 5	530	学士(環境科学)	1.03	平成9年度	長崎文教町1番14号	
	水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.03	昭和48年度	長崎文教町1番14号	
	【研究科】 多文化社会学研究科 (修士課程) 多文化社会学専攻	2	10	—	20	修士(学術)	1.05	平成30年度	長崎文教町1番14号	
	教育学研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	28	—	56	教職修士(専門職)	0.83	平成20年度	長崎文教町1番14号	
	経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	1.09	平成7年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	(博士後期課程) 経営意志決定専攻	3	3	—	9	博士(経営学)	1.00	平成16年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻	2	220	—	440	修士(工学)	1.01	平成23年度	長崎文教町1番14号	
	(博士後期課程) 生産システム工学専攻	3	15	—	45	博士(工学)	0.82	平成23年度	長崎文教町1番14号	令和元年10月入学者数は 未定のため含まない。
	(5年一貫制博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	5	5	—	25	博士(工学)	0.76	平成23年度	長崎文教町1番14号	
	水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	0.94	平成23年度	長崎文教町1番14号	令和元年10月入学者数は 未定のため含まない。
	環境科学専攻	2	25	—	50	修士(学術) 修士(環境科学)	0.96	平成27年度	長崎文教町1番14号	令和元年10月入学者数は 未定のため含まない。
	(博士後期課程) 環境海洋資源学専攻	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	0.75	平成23年度	長崎文教町1番14号	令和元年10月入学者数は 未定のため含まない。
	(5年一貫制博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	5	5	—	25	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	0.28	平成23年度	長崎文教町1番14号	令和元年10月入学者数は 未定のため含まない。

既設大学等の状況	医歯薬学総合研究科 (修士課程) 保健学専攻	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	1.12	平成18年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
	災害・被ばく医療科学共同専攻	2	10	—	20	修士(看護学) 修士(医科学)	0.85	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士課程) 医療科学専攻	4	60	—	240	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.08	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	新興感染症病態制御学系専攻	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	0.90	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	放射線医療科学専攻	4	5	—	20	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	0.85	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	先進予防医学共同専攻	4	10	—	40	博士(医学)	0.97	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	(博士前期課程) 生命薬科学専攻	2	36	—	72	修士(薬科学)	0.80	平成24年度	長崎市長教町1番14号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	(博士後期課程) 生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	0.43	平成24年度	長崎市長教町1番14号	令和元年10月入学者数は未定のため含まない。
	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士前期課程) グローバルヘルス専攻	2	37	—	62	修士(熱帯医学) 修士(公衆衛生学) 修士(医科学)	0.95	平成27年度	長崎市坂本1丁目12番4号	10月入学
	(博士後期課程) グローバルヘルス専攻	3	5	—	10	博士(グローバルヘルス)	1.20	平成30年度	長崎市坂本1丁目12番4号	平成30年度設置 10月入学
長崎大学ーロンドン大学 衛生・熱帯医学大学院国際 連携グローバルヘルス 専攻	3	5	—	10	博士(グローバルヘルス)	1.00	平成30年度	長崎市坂本1丁目12番4号	平成30年度設置 10月入学	
附属施設の概要	<p>(附置研究所)</p> <p>○熱帯医学研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：昭和24年5月(昭和42年6月 風土病研究所から改称) 規模等：土地 92,176㎡ 建物 9,649㎡ 目的：熱帯医学に関する学理及びその応用を研究する。</p> <p>○原爆後障害医療研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成25年4月 規模等：土地 92,176㎡ 建物 4,845㎡ 目的：放射線の人体への影響を国内外のヒパクシャを対象として研究により究明して、人類安全と安心に寄与する放射線健康リスク評価・管理学を實踐し、全人的被ばく医療学を推進するとともに、国際的な放射線被ばく影響の実態調査、ヒパクシャの試料・資料の収集及びデータベースの構築を行うことを目的とする。</p>									

附属施設の概要

(附属学校)

目的:

- (1) 教育基本法及び学校教育法に定める教育又は保育を行う。
- (2) 教育学部における児童若しくは生徒の教育又は幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施にあたる。
- (3) 教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行う。

○教育学部附属幼稚園

所在地:長崎市文教町4番23号
設置年月:昭和24年5月
規模等:土地 51, 185㎡ 建物 1, 148㎡

○教育学部附属小学校

所在地:長崎市文教町4番23号
設置年月:昭和24年5月
規模等:土地 (上記に含む) 建物 7, 240㎡

○教育学部附属中学校

所在地:長崎市文教町4番23号
設置年月:昭和24年5月
規模等:土地 (上記に含む) 建物 7, 613㎡

○教育学部附属特別支援学校

所在地:長崎市柳谷町42番1号
設置年月:昭和46年4月
規模等:土地 12, 529㎡ 建物 3, 518㎡

(学部等の附属施設)

○地域教育総合支援センター

所在地:長崎市文教町1番14号
設置年月:平成13年4月(教育実践研究指導センターを改組)
規模等:土地 187, 125㎡ 建物 532㎡
目的:教育実践に関する研究、指導及び研修を総合的に行い、教師教育の充実を図る。

○水産学部附属練習船鶴洋丸

設置年月:昭和50年6月(現船:平成16年12月)
規模等:アルミニウム合金船 155トン 最大搭載人員 36名
目的:航海・漁労実習, 海洋環境観測, 海洋生物資源調査

○水産学部附属練習船長崎丸

設置年月:昭和27年3月(現船:昭和61年2月)
規模等:鋼船 842トン 最大搭載人員 69名
目的:トロール漁業実習, 海洋学実習, 航海運用実習

○海洋未来イノベーション機構

所在地:長崎市多良町1551番7号
設置年月:平成28年4月
規模等:土地 10, 900㎡ 建物 1, 943㎡
目的:21世紀の最重要課題である地球環境保全及び食料供給の持続性確保に向けて、長崎に隣接する東シナ海及びその沿岸域を主な対象として国内外の研究機関とも緊密に連携しながら、水圏・大気圏・陸圏の環境保全及び多様な生物資源の持続的生産の基盤となる学際領域の研究を推進する拠点として機能することを目的とする。

○医歯薬学総合研究科附属先進予防医学研究センター

所在地:長崎県五島市三尾野1-7-1
設置年月:平成29年6月
規模等:土地 4, 826㎡ 建物 39㎡
目的:長崎大学医歯薬学総合研究科における先進予防医学に関する国内外の研究機関との共同研究の推進に寄与する。

○医歯薬学総合研究科附属薬用植物園

所在地:長崎市文教町1番14号
設置年月:昭和47年5月(平成15年4月 薬学部附属施設から医歯薬学総合研究科附属施設へ移行)
規模等:土地 187, 125㎡ 建物 445㎡
目的:園内に薬用植物を栽培し、もって学術研究及び教育に資する。

○熱帯医学研究所附属アジア・アフリカ感染症研究施設

所在地:長崎市坂本1丁目12番4号
設置年月:平成20年4月(熱帯感染症研究センターを改組)
規模等:土地 92, 176㎡ 建物 136㎡
目的:アジアやアフリカにおける熱帯病・新興再興感染症の発生・拡大に関与する現地長期調査及び複合要因の解析並びに予防制圧に資する研究及び教育を行うことにより、当該分野の学術研究の進展及び人材育成に寄与する。

○熱帯医学研究所附属熱帯医学ミュージアム

所在地:長崎市坂本1丁目12番4号
設置年月:平成20年4月(熱帯感染症研究センターを改組)
規模等:土地 92, 176㎡ 建物 382㎡
目的:熱帯医学に関する資料・情報を収集、整理、保存、解析及び提供するとともに、公衆への供覧等を行うことにより、熱帯医学に対する社会の理解を深め、学術研究の進展に寄与する。

(附属病院)

○長崎大学病院

所在地:長崎市坂本1丁目7番1号
設置年月:昭和24年5月(平成21年4月 医学部・歯学部附属病院を改組)
規模等:土地 86, 807㎡ 建物 86, 200㎡
目的:患者の診療を通じて医歯薬学関連の教育及び研究を行う。

<p>附属施設の概要</p>	<p>(学内共同教育研究施設等)</p> <p>○保健・医療推進センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和41年4月（平成20年4月 保健管理センターを改組） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 540㎡ 目的：長崎大学の学生及び職員の健康を守り、予防に努めるとともに、保健・医療分野での医療教育、本学の地域連携及び地域貢献を県及び自治体と連携し、推進する。</p> <p>○先導生命科学研究支援センター 所在地：長崎坂本1丁目12番4号 設置年月：平成15年4月（アイトーブ総合センター、遺伝子実験施設及び医学部附属動物実験施設を統合再編） 規模等：土地 92, 176㎡ 建物 10, 681㎡ 目的：放射性同位元素等、動物資源及びゲノム情報・遺伝子を用いる教育研究にその施設等を供するとともに、本学における総合的な生命科学研究の推進及び支援を行い、もって教育研究の進展に資する。</p> <p>○ICT基盤センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成16年12月（総合情報処理センターを改組） 研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 1, 137㎡ 目的：ICTを活用した教育研究環境を提供するため、情報政策の企画立案・実施、高度情報化技術に基づく情報基盤の整備、教育の情報化及び情報教育の推進を行うことを目的とする。</p> <p>○大学教育イノベーションセンター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 779㎡ 目的：本学の教育理念を達成するために、学士課程教育及び大学教育の在り方に関する研究を行うとともに、その改善に資するデータ蓄積とそれを活用した入学者選抜支援、教育支援等の業務を行うことを目的とする。</p> <p>○言語教育研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 400㎡ 目的：本学における外国語教育に関する教育及び研究を推進するとともに、外国語教育の実施に関する企画運営を行う。</p> <p>○核兵器廃絶研究センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 230㎡ 目的：ヒロシマ・ナガサキを現在の世界の潮流の中で新たに位置づけ、学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に向けた情報や提言を様々な角度から世界に発信するため、長崎市、長崎県等と連携を図りながら核兵器廃絶に係る教育研究活動を行うことにより、もって本学の教育研究の進展に資する。</p> <p>○留学生教育・支援センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成30年7月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 43㎡ 目的：長崎大学の学内共同教育研究施設として、外国人留学生並びに学部及び大学院への入学前における日本語等に関する予備教育を受ける者並びに外国の大学等に留学する日本人学生に対し、必要な教育及び指導助言を行うことにより、本学における外国人留学生の受入れ及び学生の海外留学の推進を図ることを目的とする。</p> <p>○環境保全センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成30年7月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 43㎡ 目的：長崎大学の学内共同教育研究施設として、本学の研究、教育等により生じた排水、重金属等含有廃液、排ガス等による公害の発生を防止することを目的とする。</p>	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人長崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
長崎大学									
多文化社会学部					多文化社会学部				
多文化社会学科	100	—	400		多文化社会学科	100	—	400	
教育学部					教育学部				
学校教育教員養成課程	240	—	960		学校教育教員養成課程	180	二	720	定員変更(△60)
経済学部		3年次			経済学部		3年次		
総合経済学科(昼間コース)	265	10	1,330		総合経済学科(昼間コース)	265	10	1,330	
総合経済学科(夜間主コース)	60	5			総合経済学科(夜間主コース)	60	5		
医学部					医学部				
医学科		2年次		→	医学科		2年次		
保健学科	120	5	745		保健学科	95	5	595	定員変更(△25)
		3年次					3年次		
	106	10	444			106	10	444	
歯学部					歯学部				
歯学科	50	—	300		歯学科	50	—	300	
薬学部					薬学部				
薬学科	40	—	240		薬学科	40	—	240	
薬科学科	40	—	160		薬科学科	40	—	160	
工学部					工学部				
工学科	380	—	1,520	→	工学科	330	二	1,320	定員変更(△50)
					情報データ科学部				学部の設置(事前伺い)
					情報データ科学科	110	二	440	
環境科学部		3年次			環境科学部		3年次		
環境科学科	130	5	530		環境科学科	130	5	530	
水産学部					水産学部				
水産学科	110	—	440		水産学科	110	—	440	
		2年次					2年次		
計	1,641	5	7,069		計	1,616	5	6,919	
		3年次					3年次		
		30					30		
長崎大学大学院									
多文化社会学研究科				→	多文化社会学研究科				
多文化社会学専攻(M)	10		20		多文化社会学専攻(M)	10		20	
					多文化社会学専攻(D)	3		9	専攻の設置(意見伺い)
教育学研究科					教育学研究科				
教職実践専攻(P)	28		56		教職実践専攻(P)	28		56	
経済学研究科					経済学研究科				
経済経営政策専攻(M)	15		30		経済経営政策専攻(M)	15		30	
経営意思決定専攻(D)	3		9		経営意思決定専攻(D)	3		9	
工学研究科					工学研究科				
総合工学専攻(M)	220		440		総合工学専攻(M)	220		440	
生産システム工学専攻(D)	15		45		生産システム工学専攻(D)	15		45	
グリーンシステム創成科学専攻(D)	5		25		グリーンシステム創成科学専攻(D)	5		25	
水産・環境科学総合研究科					水産・環境科学総合研究科				
水産学専攻(M)	35		70		水産学専攻(M)	35		70	
環境科学専攻(M)	25		50		環境科学専攻(M)	25		50	
環境海洋資源学専攻(D)	12		36		環境海洋資源学専攻(D)	12		36	
海洋フィールド生命科学専攻(D)	5		25		海洋フィールド生命科学専攻(D)	5		25	
医歯薬学総合研究科					医歯薬学総合研究科				
保健学専攻(M)	20		40		保健学専攻(M)	20		40	
災害・被ばく医療科学共同専攻(M)	10		20		災害・被ばく医療科学共同専攻(M)	10		20	
医療科学専攻(D)	60		240		医療科学専攻(D)	60		240	
新興感染症病態制御学系専攻(D)	20		80		新興感染症病態制御学系専攻(D)	20		80	
放射線医療科学専攻(D)	5		20		放射線医療科学専攻(D)	5		20	
先進予防医学共同専攻(D)	10		40		先進予防医学共同専攻(D)	10		40	
生命薬科学専攻(M)	36		72		生命薬科学専攻(M)	36		72	
生命薬科学専攻(D)	10		30		生命薬科学専攻(D)	10		30	
熱帯医学・グローバルヘルス研究科				→	熱帯医学・グローバルヘルス研究科				
グローバルヘルス専攻(M)	37		62		グローバルヘルス専攻(M)	37		62	
グローバルヘルス専攻(D)	5		15		グローバルヘルス専攻(D)	5		15	
長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻(D)	5		15		長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻(D)	5		15	
計	591		1,440		計	594		1,449	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
講義科目	多文化社会学特論Ⅰ	1①	2			○			6	2				オムニバス オムニバス
	多文化社会学特論Ⅱ	1②	2			○			2	3				
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			8	5	0	0	0	
演習科目	研究演習Ⅰ	1通	4				○		16	19				
	研究演習Ⅱ	2通	4				○							
	小計(2科目)	—	8	0	0	—			16	19	0	0	0	
研究指導科目	研究指導	3通	4				○		16	19				
	小計(1科目)	—	4	0	0	—			16	19	0	0	0	
	合計(5科目)	—	16	0	0	—			16	19	0	0	0	
学位又は称号	博士(学術)			学位又は学科の分野			文学関係, 法学関係, 社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
3年以上在学し、16単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。							1学年の学期区分			2期(4クォータ)※				
							1学期の授業期間			15週(7.5週)※				
							1時限の授業時間			90分				
※ 本学では、2学期制とクォータ制を併用している。学生の学期区分は、前期及び後期の2期に分け、前期を4月1日から9月30日まで、後期を10月1日から翌年3月31日までとし、前期の前半を第1クォータ、後半を第2クォータ、後期の前半を第3クォータ、後半を第4クォータとしている。														

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学問の エレメンツ 科目	学問のエレメンツⅠ	1①	2			○	○		1					
	学問のエレメンツⅡ	1②	2			○	○		1					
	学問のエレメンツⅢ	1①	2			○	○		1					
	学問のエレメンツⅣ	1①	2			○	○		1					
	学問のエレメンツⅤ	1②	2			○	○		1					
	学問のエレメンツⅥ	1②	2			○	○		1	1				
	小計（6科目）	—	—	12	0	0	—	—	—	5	1	0	0	0
グロー バル ・ スタ ディ ーズ 科目 群	文化表象論特講	1②		2		○			1					
	文化表象論特定演習	1③		1			○		1					
	現代宗教論特講	1②		2		○				1				
	現代宗教論特定演習	1③		1			○			1				
	ヨーロッパ社会史特講	1③		2		○			1					
	ヨーロッパ社会史特定演習	1④		1			○		1					
	アフリカ社会論特講	1③		2		○								兼1
	アフリカ社会論特定演習	1④		1			○							兼1
	グローバル社会と脱オリエンタリズム特講	1④		2		○			1					
	グローバル社会と脱オリエンタリズム特定演習	2①		1			○		1					
	グローバル・ヒストリー特講	1④		2		○								兼1
	グローバル・ヒストリー特定演習	2①		1			○							兼1
	カルチュラルスタディーズ特講	2①		2		○				1				
	カルチュラルスタディーズ特定演習	2②		1			○			1				
	小計（16科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	4	2	0	0	0
学問の プラク ティス 科目	国際ジェンダー論特講	1②		2		○								兼1
	国際ジェンダー論特定演習	1③		1			○							兼1
	経済開発論特講	1②		2		○				1				
	経済開発論特定演習	1③		1			○			1				
	国際秩序論特講	1③		2		○			1					
	国際秩序論特定演習	1④		1			○		1					
	地域生態論特講	1③		2		○				1				
	地域生態論特定演習	1④		1			○			1				
	トランスナショナリティ論特講	1④		2		○				1				
	トランスナショナリティ論特定演習	2①		1			○			1				
	多文化家族研究特講	1④		2		○				1				
	多文化家族研究特定演習	2①		1			○			1				
	移民政策と家族・地域・教育特講	2①		2		○				1				
	移民政策と家族・地域・教育特定演習	2②		1			○			1				
小計（14科目）	—	—	0	21	0	—	—	—	1	5	0	0	0	兼1
環 海 日 本 長 崎 学 ・ ア ジ ア 研 究 科 目 群	日本近世史・日蘭交流史特講	1②		2		○			1					
	日本近世史・日蘭交流史特定演習	1③		1			○		1					
	日本儒学・中国学特講	1②		2		○			1					
	日本儒学・中国学特定演習	1③		1			○		1					
	文化遺産論特講	1③		2		○				1				
	文化遺産論特定演習	1④		1			○			1				
	海域交流史特講	1③		2		○			1					
	海域交流史特定演習	1④		1			○		1					
	華僑・華人研究特講	1④		2		○			1					
	華僑・華人研究特定演習	2①		1			○		1					
	現代日本政治外交論特講	1④		2		○				1				
	現代日本政治外交論特定演習	2①		1			○			1				
	現代アジア社会論特講	2①		2		○			1					
	現代アジア社会論特定演習	2②		1			○		1					
小計（14科目）	—	—	0	21	0	—	—	—	5	2	0	0	0	

教育課程等の概要														
(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学問の ブラクティス 科目	言語多 様性科 目群	言語学基礎研究特講 a	1②	2		○			1					
		言語学基礎研究特講 b	1②	2		○			1					
		英語学特講	1②	2		○								兼1
		異文化語用論特講	1③	2		○				1				兼1
		第二言語習得研究	1③	2		○					1			兼1
		談話分析特講	1④	2		○					1			兼1
		英語統語論特講	1④	2		○					1			兼1
		言語教育と第二言語習得特講	2①	2		○								兼1
		言語理論研究特講	2②	2		○								兼1
		言語学特定演習	1③	1			○							兼1
		応用言語学特定演習	1④	1			○			1				
		日中対照言語学特定演習	2①	1			○			1				
		日英対照言語学特定演習	2①	1			○				1			
		小計（13科目）	—	0	22	0	—	—	—	2	2	0	0	0
核軍縮・ 不拡散科 目群	核軍縮と国際政治特講	1①	2		○			1						
	核軍縮と国際政治特定演習	1③	1			○		1						
	原子力平和利用と核不拡散特講	1②	2		○			1						
	原子力平和利用と核不拡散特定演習	1③	1			○		1						
	核軍縮交渉の法と政治特講	1③	2		○								兼1	
	核軍縮交渉の法と政治特定演習	1④	1			○							兼1	
	核物質管理と核セキュリティ特講	1③	2		○			1						
	核物質管理と核セキュリティ特定演習	1④	1			○		1						
小計（8科目）	—	0	12	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼1	
選択科 目	選択 科目 東洋文 庫	オリエンタルスタディーズⅠ	隔年	2		○							兼2	
		オリエンタルスタディーズⅡ	隔年	2		○							兼2	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	兼3	
	選択 科目 総合資 料学	総合資料学	1②～③	2		○								兼3
		小計（1科目）	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	兼3
選択 科目 海外経 験		海外留学	2①～②	2				○	1					
	海外フィールドワーク	1②～③	2				○	1						
	海外インターンシップ	1③～④	2				○		1					
	小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	2	1	0	0	0		
科必 修	多文化社会学セミナー	2通	2				○	14	15					
	小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	14	15	0	0	0		
指 導 研 究	研究指導	2通	4				○	14	15					
	小計（1科目）	—	4	0	0	—	—	14	15	0	0	0		
合計（79科目）		—	18	112	0	—	—	14	16	0	0	0	兼14	
学位又は称号		修士（学術）	学位又は学科の分野			文学関係，法学関係，社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本研究科課程に2年以上在学し、34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。						1学年の学期区分		2期（4クォータ）※						
						1学期の授業期間		15週（7.5週）※						
						1時限の授業時間		90分						
(1)学問のエレメント科目 12単位														
(2)学問のブラクティス科目 18単位														
必修科目の「多文化社会学セミナー」及び主選択した科目群において、最低6科目9単位（特講3科目6単位、特定演習3科目3単位）を修得する。														
(3)研究指導 4単位														
※ 本学では、2学期制とクォータ制を併用している。学生の学期区分は、前期及び後期の2期に分け、前期を4月1日から9月30日まで、後期を10月1日から翌年3月31日までとし、前期の前半を第1クォータ、後半を第2クォータ、後期の前半を第3クォータ、後半を第4クォータとしている。														

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(多文化社会学部 多文化社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養ゼミナール科目	初年次セミナー	1前	1				○		3	4		3		
	小計（1科目）	—	1	0	0		—		3	4	0	3	0	
情報科学科目	情報基礎	1前	2				○							兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1
健康・スポーツ科学科目	健康科学	1③	1				○							兼6 オムニバス
	スポーツ演習	2前		1			○							兼1
	小計（2科目）	—	1	1	0		—		0	0	0	0	0	兼7
キャリア教育科目	キャリア入門	1①		1			○							兼3 オムニバス・共同（一部）
	小計（1科目）	—	0	1	0		—		0	0	0	0	0	兼3
地域科学科目	長崎地域学	1②	1				○							兼1
	小計（1科目）	—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1
英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○			1				兼2
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○							兼3
	英語コミュニケーションⅢ	2後	1				○							兼3
	総合英語Ⅰ	1前	1				○		1	1				兼1
	総合英語Ⅱ	1後	1				○		1					兼2
	総合英語Ⅲ	2前	1				○			1				
	小計（6科目）	—	6	0	0		—		1	2	0	0	0	兼9
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○		1					
ドイツ語Ⅱ	1後		1			○		1						
ドイツ語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
ドイツ語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
フランス語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
フランス語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
中国語Ⅰ	1前		1			○		1					兼1	
中国語Ⅱ	1後		1			○		1					兼1	
中国語Ⅲ	2前		1			○		1						
中国語Ⅳ	2後		1			○		1						
韓国語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
韓国語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
韓国語Ⅲ	2前		1			○							兼1	
韓国語Ⅳ	2後		1			○							兼1	
小計（16科目）	—	0	16	0		—		2	0	0	0	0	兼5	
多様性と共生	現代経済と企業活動	1③		2			○							兼1
	企業の仕組みと行動	1③		2			○							兼1
	経済政策と公共部門	1④		2			○							兼1
	国際環境法	1後		2			○							兼1
環境と持続可能な発展	国内環境法Ⅰ	1後		2			○							兼1
	国内環境法Ⅱ	1後		2			○							兼2 オムニバス
科学/技術の恩恵と限界	基礎生物学	1④		2			○							兼4 オムニバス
	基礎生命科学	1③		2			○							兼4 オムニバス
	基礎生物学	1③		2			○							兼4 オムニバス
	健康と医療の安全・安心	1③		2			○							兼4 オムニバス
リスク社会と健康	リスク社会と社会科学	1③		2			○							兼1
	科学と技術の安全・安心	1④		2			○							兼3 オムニバス
核兵器のない世界を目指し	核兵器とは何か	1③		2			○							兼1
	国際社会と平和	1④		2			○		1					兼4
	被ばくと社会	1③		2			○							兼4 オムニバス
暮らしの中の科学	暮らしの中の情報科学	1③		2			○							兼2 オムニバス
	身の回りの中の物理科学	1④		2			○							兼1
	環境・生活と化学	1④		2			○							兼2 オムニバス

教育課程等の概要															
(多文化社会学部 多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学モジュールI科目	いのち・身体・機能の回復の科学	耳鼻咽喉領域における感覚・機能の障がいと回復	1④	2		○								兼4	オムニバス
		運動器のしくみと機能の障がいと回復	1④	2		○								兼4	オムニバス
		眼の発生・多様性と障がいからの回復	1③	2		○								兼4	オムニバス
	教育の基礎	教育原理(教育課程の意義及び編成の方法の内容を含む。)	1後	2		○								兼4	オムニバス・兼中
		教育心理学	1④	2		○								兼1	
		教育社会・制度論	1③	2		○								兼3	オムニバス
	変容する環境と課題	生物多様性を考える	1③	2		○								兼3	オムニバス
		都市環境を考える	1④	2		○								兼2	オムニバス
		地球温暖化を考える	1③	2		○								兼4	オムニバス
	暮らしに役立つ情報技術	情報の活用	1③	2		○								兼1	
		情報社会の安全と安心	1④	2		○								兼1	
		計算機の科学	1③	2		○								兼1	
	国際社会の多様な視点	グローバル化時代の社会問題	1④	2		○								兼1	
		国際的視点に立った法と政治	1③	2		○								兼1	
		グローバル人材へのリテラシー～グローバル人材2.0～	1③	2		○								兼1	
コミュニケーション基礎講座	対人関係の社会学	1④	2		○								兼1		
	メディア・コミュニケーション基礎	1③	2		○								兼1		
	コミュニケーション基礎実践	1③	2		○								兼3	オムニバス	
小計（36科目）		—	0	72	0	—			1	0	0	0	0	兼76	
全学モジュールII科目	現代経済と社会	国際社会と日本経済	2④	2		○								兼1	
		企業行動と戦略	2④	2		○								兼1	
		社会制度と経済活動	2③	2		○								兼1	
	現代経済と社会	国際社会と日本経済	2④	2		○								兼1	
		企業行動と戦略	2③	2		○								兼1	
		経営情報と会計情報	2①	2		○								兼1	
	環境マネジメント	エネルギー・マネジメント	2④	2		○								兼2	オムニバス
		有害化学物質のマネジメント	2①	2		○								兼2	オムニバス
		廃棄物のマネジメント	2③	2		○								兼1	
	未来・現在・過去	伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	2①	2		○								兼3	オムニバス
		高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	2①	2		○								兼3	オムニバス
		疾病の回復を促進する薬	2後	2		○								兼2	オムニバス
	病気と薬を考	疾病と薬物治療	2④	2		○								兼2	オムニバス
		薬草・健康食品と病気	2①	2		○								兼3	オムニバス
		薬との賢い付き合い方	2④	2		○								兼3	オムニバス
安全で安心な暮らしを実現するためのリスク	医療現場の安全と安心	2①	2		○								兼4	オムニバス	
	自然災害とインフラ長寿命化	2③	2		○								兼2	オムニバス	
	環境リスクと社会	2③	2		○								兼1		
私たちが核兵器を廃絶しよう	文学・芸術と核兵器	2④	2		○				1				兼2	オムニバス	
	核と平和を科学する	2①	2		○								兼2	オムニバス	
	市民運動・NGOと核兵器廃絶	2③	2		○								兼2	オムニバス	
核兵器廃絶への取り組み	核兵器廃絶と教育	2①	2		○								兼4	オムニバス	
	メディアと平和	2③	2		○				1				兼3	オムニバス	
	核軍縮の法と政治	2③	2		○				1				兼1	オムニバス	
暮らしの中の科学	意思決定の数理	2③	2		○								兼1		
	暮らしと電気	2①	2		○								兼2	オムニバス	
	分子設計と合成化学	2③	2		○								兼2	オムニバス	

教育課程等の概要															
(多文化社会学部 多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目 モジュール科目 全学モジュールⅡ科目 変容する環境とリテラシー	健やかに生きる	映画から学ぶライフサイクルとメンタルヘルス 発達症（発達障害）の理解と支援 ヒトはなぜ病気になるのか	2④ 2④ 2③	2 2 2	0 0 0	兼4 兼3 兼4	オムニバス オムニバス オムニバス								
	生命を多次元で哲学する	細胞生命を哲学する 地域社会に生きる個体生命を哲学する 社会生命を哲学する	2③ 2④ 2①	2 2 2	0 0 0	兼4 兼2 兼2	オムニバス オムニバス オムニバス								
	教育と文化	教育相談 文学と社会 芸術	2③ 2④ 2①	2 2 2	0 0 0	兼1 兼1 兼1									
	教育と社会	教育相談 身のまわりの科学 環境と社会	2① 2③ 2④	2 2 2	0 0 0	兼1 兼1 兼2	オムニバス								
	環境と社会生活	生態系と社会 環境と社会運動 環境問題の歴史から学ぶ	2② 2① 2②	2 2 2	0 0 0	兼2 兼2 兼3	オムニバス オムニバス オムニバス								
	環境と社会の共生	資源管理論 地域の環境を考える 廃棄物の管理と処理	2① 2③ 2④	2 2 2	0 0 0	兼2 兼2 兼1	オムニバス オムニバス								
	情報社会を考える	情報と社会 情報化の役割と課題 ソフトウェアの利用技術	2③ 2④ 2③	2 2 2	0 0 0	兼4 兼1 兼1	オムニバス								
	ICTの仕組みと活用法	情報通信とコンピュータネットワークのしくみ プログラミング入門 情報化時代の仕事術	2③ 2④ 2③	2 2 2	0 0 0	兼1 兼1 兼1									
	多文化共生とグローバル人材育成	英語で学ぶオランダと西欧の文化 異文化接触とコミュニケーション キャリアデザイン実践	2① 2④ 2②	2 2 2	0 0 0	兼1 兼1									
	グローバル化と国際開発	稼ぐ観光～地域を通じたグローバルビジネスへの扉～ 世界人口の動向と国際開発 国際援助と公的部門の役割	2④ 2① 2④	2 2 2	0 0 0	兼1 兼1 兼1									
	文化と対人関係	地域創生と観光 身体関係論 身体関係論 他者理解とバイアス	2④ 2① 2① 2③	2 2 2 2	0 0 0 0	兼1 兼1 兼1 兼1									
	グループ・コミュニケーション	コミュニケーションの生物学・臨床医学 音表現とグループ・プロセス リーダーシップの問題と解決策	2③ 2① 2④	2 2 2	0 0 0	兼3 兼2 兼1	オムニバス オムニバス								
	小計（64科目）			—	0	128	0	—	2	1	0	0	0	兼107	

教育課程等の概要															
(多文化社会学部 多文化社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
モジュール科目 学部モジュール科目	多文化社会学の諸問題I（社会）	1①	1			○			2	4				オムニバス	
	多文化社会学の諸問題II（人文）	1①	1			○			2	4				オムニバス	
	国際公共政策入門（政治）	1①	1			○			1						
	国際公共政策入門（法）	1③	1			○				1					
	国際公共政策入門（経済）	1②	1			○				1					
	社会学入門	1③	1			○			1						
	人類学・民俗学入門	1②	1			○			1	4				オムニバス	
	歴史学入門	1③	1			○			2					オムニバス	
	文化研究入門	1③	1			○				1					
	思想・宗教研究入門	1②	1			○			1	1				オムニバス	
	言語コミュニケーション入門	1②	1			○			2	3				兼2 オムニバス	
	エリア研究入門	1④	1			○			3	3				オムニバス	
	小計（12科目）	—	—	12	0	0	—	—	—	10	15	0	0	0	兼2
教養教育科目 自由選択科目	日本国憲法	1①②④		2		○								兼2	
	モノポリーで学ぶ教養としてのビジネス	1前		2		○								兼1 集中	
	芸術と文化	1③		2		○								兼1	
	市民社会と法	1③		2		○								兼1	
	ボランティアを通して地域を知る	1②		2		○								兼4 オムニバス	
	English for Specific Purposes (A)	1前		1		○								兼1	
	English for Specific Purposes (B)	1後		1		○								兼1	
	上級外国語(フランス語)	3①		1		○								兼1	
	上級外国語(中国語)	3②		1		○			1						
	上級外国語(韓国語)	3①		1		○								兼1	
	オランダの言語	1前		2		○								兼1	
	オランダの文化	1後		2		○								兼1	
	平和講座	1②		2		○								兼4 オムニバス	
	自己表現法	1②		2		○								兼1	
	解放講座	1前後		2		○								兼1 集中	
	社会生活における情報活用術	1④		2		○								兼3 オムニバス	
	平成長崎塾	1前		2		○								兼4 オムニバス	
	自分のキャリアを考える講座～男女共同参画とダイバーシティの視点から～	1①		2		○								兼4 オムニバス	
	キャリア実践	1前		2				○						兼1 集中	
	物理科学	1①		2		○								兼1	
	生物の科学	1前③		2		○								兼1	
	データの科学	1④		2		○								兼1	
	全学乗船実習	1・2後		2				○						兼1 集中	
	開発協力論	1前		2		○				1					
	現代アジア社会の諸問題—政治経済・宗教・文化を中心に	1③		2		○						2			オムニバス
	研究倫理とコンプライアンス	1①		2		○									兼4 オムニバス
	現代社会を生きる	1②		2		○									兼1
	キャリア交流	1③		2		○									兼2 オムニバス
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1・2後		2		○									兼2 オムニバス・集中
	特別な支援を必要とする子どもの理解	1・2前		2		○									兼9 オムニバス・集中
	生徒・進路指導論	1・2前		2		○									兼2 オムニバス・集中
	教育方法・技術論	2前		2		○									兼1 集中
	Asia and Japan in Modern and Contemporary History	1①		2		○					1				
	Globalization and Health in Nagasaki/Japan	1③		2		○									兼1
	Sport Communication and Coaching in Touch Rugby	1①		2		○									兼1
	Contemporary Issues of Marine Ecosystems and Environment	1②		2		○									兼1
	Toward a Nuclear Weapon Free-World	1④		2		○									兼1
	Nagasaki Studies I	1③		2		○									兼1
	Nagasaki Studies II	1④		2		○									兼1
	Development Cooperation and Global Health	1④		2		○									兼1
海外English Camp(A)	1前		2				○							兼1 集中	
海外English Camp(B)	1後		2				○							兼1 集中	
小計（42科目）	—	—	0	79	0	—	—	—	1	2	0	2	0	兼54	

教育課程等の概要																
(多文化社会学部 多文化社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	留学生用科目	日本語上級Ⅰ	1前	2			○							兼1		
		日本語上級Ⅱa	1前	2			○							兼1		
		日本語上級Ⅱb	1後	2			○							兼1		
		日本事情	1後	2			○							兼1		
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	基礎講義科目	軍縮論	2後	2		○			1					兼1	オムニバス	
		国際関係基礎（政治史）	2①	2		○				1						
		国際関係基礎（政治思想）	2③	2		○			1							
		ジェンダーと人権	2前	2		○									兼1	集中
		国際法	2③	2		○				1						
		ミクロ経済学	2前	2		○				1						
		国際社会学基礎	2①	2		○			1							
		地域社会学基礎	2②	2		○			1							
		家族社会学基礎	2①	2		○				1						
		教育社会学基礎	2④	2		○				1						
		歴史社会学基礎	2①	2		○				1						
		文化人類学基礎（観光）	2②	2		○			1							
		文化人類学基礎（民族誌）	2②	2		○				1						
		文化人類学基礎（生態・社会）	2③	2		○				1						
		文化人類学基礎（民俗学）	2③	2		○				1						
		文化人類学基礎（移民）	2①	2		○				1						
		歴史学基礎（日本）	2④	2		○			1							
		歴史学基礎（ヨーロッパ）	2④	2		○			1							
		歴史学基礎（文化交流）	2③	2		○									兼1	
		歴史学基礎（考古学）	2④	2		○			1							
		思想史基礎（ヨーロッパ）	2③	2		○				1						
		思想史基礎（中国）	2③	2		○			1							
		宗教学基礎	2④	2		○				1						
		文化研究基礎（表象）	2①	2		○			1							
		文化研究基礎（メディア）	2②	2		○				1						
		言語学基礎A	2①	2		○				1						
		言語学基礎B	2前	2		○									兼1	集中
		中国語学基礎A	2前	2		○									兼1	集中
		中国語学基礎B	2②	2		○			1							
		英語の発想と表現A	2③	2		○				1						
		英語の発想と表現B	2④	2		○			1							
		日本語学基礎A	2③	2		○				1						
		日本語学基礎B	2④	2		○							1			
	小計（33科目）	—	0	66	0	—		12	16	0	1	0	兼3			
リサーチ科目	リサーチ入門（フィールドワーク）	1後	2		○			2	3						オムニバス	
	リサーチ入門（文献調査）含古文書	1前	2		○				1							
	リサーチ基礎（インタビュー、参与観察）	2前	2		○				4						オムニバス・集中	
	リサーチ基礎（表象）	2後	2		○			1	2						オムニバス	
	リサーチ基礎（映像）	2前	2		○									兼1	集中	
	リサーチ基礎（サーベイ）	2④	2		○									兼1		
	リサーチ基礎（アーカイブ）	2前	2		○			1	1							
	外国語文献購読	2前	2		○			2	6							
	フィールドワーク実習（海外/国内）	3通	2				○		1							
	小計（9科目）	—	2	16	0	—		6	12	0	0	0	兼2			
英語モジュール科目	Study Abroad and Presentation	1前	1			○			1					兼2		
	英語のしくみと意味Ⅰ	1後	2			○		1	1							
	英語のしくみと意味Ⅱ	2前	2			○		1	1							
	Reading and WritingⅠ	1前	1				○		1					兼2		
	Reading and WritingⅡ	2前	1				○		1					兼2		
	Academic WritingⅠ	2後	1				○		1					兼2		
	Academic WritingⅡ	3前	1				○		1					兼2		
	Reading and DiscussionⅠ	1後	1				○		1					兼2		
	Reading and DiscussionⅡ	3前	1				○		1					兼2		
	Debate	3後	2				○		1					兼1		
	小計（10科目）	—	13	0	0	—		1	2	0	0	0	兼3			

教育課程等の概要														
（多文化社会学部 多文化社会学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
中国語科目 モジュール	中国語総合表現Ⅰ	2前		1			○		1					
	中国語総合表現Ⅱ	2後		1			○		1					
	中国語文献討論Ⅰ	3前		2			○		1					
	中国語文献討論Ⅱ	3後		2			○		1					
	中国語プレゼンテーション	4前		1				○	2					オムニバス
	小計（5科目）	—	0	7	0		—		2	0	0	0	0	
モオランダ 科目 ユール語	オランダ語Ⅰ	2前		2			○							兼1
	オランダ語Ⅱ	2後		2			○							兼1
	オランダ語Ⅲ	3前		2			○							兼1
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼1
専門教育科目 専門講義科目	国際機構論	3前		2			○		1					
	平和学	3④		2			○		1					
	EU法	3②		2			○			1				
	国際政治学	3前		2			○		1					
	比較政治学	3④		2			○			1				
	国際経営論	3前		2			○							兼1
	開発経済学	3①		2			○			1				
	国際人権論	3前		2			○							兼1
	グローバルヘルス	3①		2			○		1			1		オムニバス
	計量経済学	3③		2			○			1				
	アジア経済論	2前		2			○							兼1
	多文化マーケティング論	3前		2			○							兼1
	国際社会学	3後		2			○		1					
	異文化理解教育	3前		2			○			1				
	トランスナショナルリティ論	3前		2			○			1				
	異文化と家族	3前		2			○			1				
	現代アフリカ社会論	3後		2			○			1				
	現代アジア社会論	3後		2			○		1					
	陶磁考古学	3後		2			○		1					
	グローバル文化交流史	3後		2			○							兼1
	社会史	3後		2			○		1					
	異文化交流論	3後		2			○		1					
	文化資源論	3④		2			○			1				
	地域生態論	3後		2			○			1				
	思想史	3後		2			○			1				
	中国思想史	3後		2			○		1					
	宗教文化論	3前		2			○			1				
	記憶文化論	3③		2			○							兼1
	文化表象論	3前		2			○		1					
	映画論	3①		1			○							兼1
	メディア・スタディーズ	3前		2			○			1				
	地域史料論	3前		2			○		1					
	イギリス文学論	3後		2			○							兼1
	異文化間コミュニケーション	3前		2			○			1				
	英語音声のしくみと働き	3後		2			○							兼1
	英米文学概論	3前		2			○							兼1
	応用言語学	3後		2			○							兼1
	現代言語理論	3前		2			○							兼1
	コーパス言語学	3前		2			○		1					
	対照言語学（日英）	3後		2			○			1				
対照言語学（日中）	3後		2			○		1						
第二言語習得論	3後		2			○							兼1	
日本語学	3前		2			○			1					
日蘭比較文化	3前		2			○							兼1	
オランダ現代社会論	2後		2			○		1						
オランダ文化論	2前		2			○		1						
小計（46科目）	—	0	91	0		—		14	15	0	1	0	兼13	

教育課程等の概要														
（多文化社会学部 多文化社会学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア科目	グローバルキャリア入門	1①	1			○				1				
	キャリア形成論	3前	2			○				1				
	自主企画インターンシップ	2通		2			○			1				
	企業研究	2③		2		○				1				
	小計（4科目）	—	3	4	0	—	—	—	0	1	0	0	0	
演習科目	基礎演習Ⅰ	2前	1				○		13	16				
	基礎演習Ⅱ	2後	1				○		13	16				
	専門演習Ⅰ	3前		1			○		12	16				
	専門演習Ⅱ	3後		1			○		12	16				
	卒業研究	4通		6			○		12	16				
	特別研究	3～4通		8			○		12	16				
小計（6科目）	—	2	16	0	—	—	—	13	16	0	0	0		
自由選択科目	ミュージアム・講演ラリー	1通		1			○		1					
	大使館連続講義	1④		1			○		1					
	寄附講座：アジア共同体講座	1後		2					3	2				オムニバス
	ジャーナリズム論Ⅰ	1①		1		○			1					
	ジャーナリズム論Ⅱ	1③		1		○			1					
小計（5科目）	—	0	6	0	—	—	—	4	2	0	0	0		
自由科目	教職論	1後			2	○								兼1
	英語科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼1
	英語科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼1
	教育実習（事前・事後指導含む。）	4前			3			○	1					兼2
	教職実践演習	4後			2	○			1					兼2
	日本語教育学概論	2後			2	○								兼1
	日本語指導法	3前			2	○								兼1
	日本語教育実習	3前			2			○		1				
小計（8科目）	—	0	0	17	—	—	—	1	1	0	0	0		
合計（315科目）			—	43	517	17	—	—	14	17	0	4	0	兼237
学位又は称号	学士（多文化社会学）		学位又は学科の分野					文学関係，法学関係，社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
本学部の卒業要件は、本学部に4年以上在学し、かつ124単位を修得することとする。 履修コースごとの必要単位は、以下のとおりである。								1学年の学期区分		2期（4クォータ）※				
								1学期の授業期間		15週（7.5週）※				
								1時限の授業時間		90分				
○教養教育科目（各履修コース共通） <u>42単位以上</u> (1)教養ゼミナール科目 <u>1単位</u> (2)情報科学科目 <u>2単位</u> (3)健康・スポーツ科学科目 <u>1～2単位</u> キャリア教育科目で1単位修得した場合は1単位、キャリア教育科目で0単位修得の場合は2単位を修得する。 (4)キャリア教育科目 <u>0～1単位</u> 健康・スポーツ科学科目で1単位修得した場合は1単位、健康・スポーツ科学科目で2単位修得した場合は0単位 (5)地域科学科目 <u>1単位</u> (6)外国語科目 ①英語 <u>6単位</u> ②初習外国語 <u>4単位</u> ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語から1言語を選択。 (7)全学モジュールⅠ科目 <u>6単位</u> 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (8)全学モジュールⅡ科目 <u>6単位</u> 1テーマを選択し、3科目（6単位）を修得する。 (9)学部モジュール科目 <u>12単位</u> (10)自由選択科目 <u>2単位</u>														

教 育 課 程 等 の 概 要													
(多文化社会学部 多文化社会学科)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
○国際公共政策，社会動態，共生文化，言語コミュニケーションコースの専門教育科目 <u>8.2単位</u>													
(1)基礎講義科目 <u>1.6単位</u> 主コースの指定科目群科目から1.0単位，他コースの科目から6単位を修得する。													
(2)リサーチ科目 <u>6単位</u> 「リサーチ入門（フィールドワーク）」，「リサーチ入門（文献調査）」から1科目を選択し，「リサーチ基礎（インタビュー、 参与観察）」，「リサーチ基礎（表象）」，「リサーチ基礎（映像）」，「リサーチ基礎（サーベイ）」，「リサーチ基礎（アーカイブ）」から1科目を選択。													
(3)英語モジュール科目 <u>1.3単位</u>													
(4)中国語モジュール科目 <u>0～7単位</u> 中国語モジュール科目及び自由選択科目から合計1.0単位を修得する。 教養教育科目の初習外国語として中国語を選択した者又は中国語検定4級以上の合格者に限り履修可能。													
(5)オランダ語モジュール科目 <u>0単位</u>													
(6)専門講義科目 <u>2.4単位</u> 主コースの指定科目群科目から2.0単位，他コースの科目から4単位を修得する。													
(7)キャリア科目 <u>3単位</u>													
(8)演習科目 <u>1.0単位</u> 選択科目のうち，「専門演習Ⅰ」，「専門演習Ⅱ」，「卒業研究」を修得する。													
(9)自由選択科目 <u>3～1.0単位</u> 中国語モジュール科目及び自由選択科目から合計1.0単位を修得する。 自由選択科目の区分に配当される科目のほか，基礎講義科目，リサーチ科目，オランダ語モジュール科目，専門講義科目及び キャリア科目の最低修得単位数を超えた単位をもって充てることができる。													
<u>履修登録上限単位数 4.8単位（1学年あたり）</u>													
○オランダ特別コースの専門教育科目 <u>8.2単位</u>													
(1)基礎講義科目 <u>1.6単位</u> 副コースの科目から1.0単位，他コースの科目から6単位を修得する。													
(2)リサーチ科目 <u>6単位</u> 「リサーチ入門（フィールドワーク）」，「リサーチ入門（文献調査）」から1科目を選択し，「リサーチ基礎（インタビュー、 参与観察）」，「リサーチ基礎（表象）」，「リサーチ基礎（映像）」，「リサーチ基礎（サーベイ）」，「リサーチ基礎（アーカイブ）」から1科目を選択。													
(3)英語モジュール科目 <u>1.3単位</u>													
(4)中国語モジュール科目 <u>0単位</u>													
(5)オランダ語モジュール科目 <u>6単位</u>													
(6)専門講義科目 <u>2.4単位</u> 主コースの指定科目群科目から1.8単位（うち1.0単位はライデン大学での履修科目を単位認定），副コースの科目から6単位を修得。													
(7)キャリア科目 <u>3単位</u>													
(8)演習科目 <u>1.0単位</u> 選択科目のうち，「特別研究」を修得する。													
(9)自由選択科目 <u>4単位</u> 自由選択科目の区分に配当される科目のほか，基礎講義科目，リサーチ科目，専門講義科目及びキャリア科目の最低修得単位数を超えた 単位をもって充てることができる。													
<u>履修登録上限単位数 4.8単位（1学年あたり）</u>													
※ 本学では，2学期制とクォータ制を併用している。学生の学期区分は，前期及び後期の2期に分け，前期を4月1日から9月30日まで， 後期を10月1日から翌年3月31日までとし，前期の前半を第1クォータ，後半を第2クォータ，後期の前半を第3クォータ，後半を第4 クォータとしている。													

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義 科目	多文化社会学特論Ⅰ	<p>（概要） 俯瞰的かつ超域的な新しい〈知〉としての多文化社会学において、「社会文化研究系」、「言語研究系」及び「環海日本長崎学・アジア研究系」の研究領域を中心に、21世紀社会の「多文化社会的状況」に対する独創的で卓越的な「問題本質を見極める力」の基盤を形成する。</p> <p>授業到達目標としては、「社会文化研究系」、「言語研究系」及び「環海日本長崎学・アジア研究系」の3つの系の観点から、人文社会科学系の再編を通じた多文化社会学の基盤的かつ汎用性を持った知と方法のなお一層高度な修得を通じて、「多文化社会的状況」における「問題本質を見極める力」の基盤を形成する。</p> <p>（オムニバス形式／全15回） （6 王 維／2回） 長崎とアジア・世界を結ぶ社会、文化、ネットワークの「多様性」と「共生」の実践</p> <p>（7 西原 俊明／2回） 言語諸分野研究から見た言語の普遍性、個別性及び多様性——統語論・意味論及び語用論・社会言語学を中心に</p> <p>（9 葉柳 和則／2回） 社会文化研究における「多様性」と「共生」の視点——精神、社会、文化から</p> <p>（11 鈴木 章能／2回） 世界文学からの「多様性」と「共生」の視点——アイデンティティとポリティクス及び差異と類似性</p> <p>（14 首藤 明和／1回） アジア研究の可能性——「他者支配の言説」の脱構築からの「多様性」と「共生」</p> <p>（15 木村 直樹／2回） 日本・長崎とアジア・世界を結ぶ歴史的世界の「多様性」と「共生」の実践</p> <p>（21 波佐間 逸博／2回） 人類学からの視点——自然・生命との「共生」とその「多様性」</p> <p>（25 滝澤 克彦／2回） 「リスク社会」における宗教と共生——日本とモンゴルの事例を通して</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
講義 科目	多文化社会学特論Ⅱ	<p>(概要) 俯瞰的かつ超域的な新しい〈知〉としての多文化社会学において、「公共政策研究系」及び「核兵器廃絶・平和学系」の研究領域を中心に、公共政策の課題設定と設計、政策形成と決定、政策実施と管理、政策評価を通じて、21世紀社会の「多文化社会的状況」に対する独創的で卓越的な「問題解決に向けた多様な解を提示する力」の基盤を形成する。 授業到達目標としては、「公共政策研究系」及び「核兵器廃絶・平和学系」の2つの系の観点から、異なる社会や文化における経験と理論の往還を比較・深化させ、「問題解決に向けた多様な解を提示する力」の基盤を形成する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回) (2 吉田 文彦／3回) 核軍縮・不拡散政策、核政策と国際安全保障政策、核兵器廃絶とナガサキ</p> <p>(3 森川 裕二／3回) 東アジアのリージョナリズムと公共政策、東南アジアのサブリージョンと公共政策、東アジアの国際秩序・歴史記憶と公共政策</p> <p>(24 東 史彦／3回) 超国家法としてのEU法と国内法・国際法との関係——国際経済法及び国際人権法からの分析、主権国家群の統合と平和構築への課題と展望</p> <p>(29 見原 礼子／3回) 国民国家と公教育制度、ノンフォーマル教育の多様性と課題、移民・難民の子どもの教育と生活</p> <p>(32 小松 悟／3回) 開発途上国の持続可能な発展、開発途上国のエネルギー政策、開発途上国の環境政策</p>	オムニバス方式
演習 科目	研究演習Ⅰ	<p>(概要) 社会文化研究系、言語研究系、環海日本長崎学・アジア研究系、公共政策研究系及び核兵器廃絶・平和学系のうち、いずれかの系(研究領域)に基づいて研究課題にアプローチする。その上で、「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を身につけ、持続可能な社会の構築に資する質の高い研究計画を作成し、それに基づいて各自の研究を進めていく。 授業到達目標としては、専門分野の先行研究の収集、読解、批判的検討を行い、各自の研究の意義や目的を明らかにするなかで、研究計画を作成し、研究指導の内容を踏まえつつ、学位論文作成に必要な資料やデータの収集、分析、考察を行うことができる力及び合同中間発表会で、研究計画及び成果を的確に発表・説明することができる力を養成する。</p> <p>(1 鈴木 達治郎) 原子力平和利用、核軍縮・核不拡散、核セキュリティ、エネルギー・環境、科学技術と社会</p> <p>(2 吉田 文彦) 核抑止、核軍縮・不拡散、軍備管理条約、安全保障、平和</p> <p>(3 森川 裕二) 国際政治学、東アジア国際関係</p> <p>(4 楊 曉安) 実験音声学、統語論、語用論、比較言語学、方言学</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	研究演習 I	<p>(5 正本 忍) フランス近世史, アンシアン・レジーム, 治安, 統治構造, 社会史</p> <p>(6 王 維) 人口・移住研究, マイノリティ, 芸能・芸術研究, 文化・宗教・社会意識, 国際社会・エスニシティ</p> <p>(7 西原 俊明) 英語学 (特に, 統語論・動詞意味論), コーパス言語学, 応用言語学</p> <p>(8 井田 洋子) 公共政策, 国家論, 平和学, 政教分離</p> <p>(9 葉柳 和則) ヨーロッパ文学, 文化社会学, 文化表象論, ナラトロジー</p> <p>(10 野上 建紀) 近世考古学, 水中考古学, 陶磁史, 海上交易史</p> <p>(11 鈴木 章能) 英米・英語圏文学, 文学一般, 比較文学, 外国語教育</p> <p>(12 前田 桂子) 方言学, 日本語学, 近世語, 文法学</p> <p>(13 吉田 ゆり) 公共政策 (子育て・子育て環境), 特別支援教育, 臨床心理学</p> <p>(14 首藤 明和) 社会学, 地域研究, アジア社会論</p> <p>(15 木村 直樹) 日蘭交流史, 近世史, 史料研究, 外交史, 政治史</p> <p>(16 針貝 綾) 美術史, 美学・芸術諸学, 芸術一般, 博物館史, デザイン史</p> <p>(17 Guelbeyaz Abdurrahman) 社会言語学, 文化・宗教・社会意識, メディア, 言語教育, 音楽学</p> <p>(18 細田 尚美) 東南アジア地域研究, 国際労働移動, トランスナショナル・コミュニティ</p> <p>(19 才津 祐美子) 文化人類学・民俗学, 文化資源, 文化財・文化遺産, 観光</p> <p>(20 大平 晃久) 文化地理学, 文化遺産, 記憶論</p> <p>(21 波佐間 逸博) 文化人類学・民俗学, 地域研究, 社会学, アフリカ, 地域間比較</p> <p>(22 賽漢卓娜) 家族社会学, 移民研究, 国際結婚, エスニシティ</p> <p>(23 CUTRONE PINO) 語用論, 談話研究, 社会言語学, 教授法, 異文化間コミュニケーション</p> <p>(24 東 史彦) EU法, 国際法, 国際経済法, 国際人権法, 国際機構論</p> <p>(25 滝澤 克彦) 宗教学, 文化人類学・民俗学, 社会学, 地域研究</p> <p>(26 南 誠) 歴史社会学, トランスナショナルリティ, 境界文化論, 歴史と記憶, 本国帰還者 (中国帰国者), 多文化共生</p> <p>(27 COMPEL RADOMIR) 地域紛争論, 沖縄関係学, 比較政治学, 国際政治学, 日本政治史</p> <p>(28 中島 ゆり) 教育社会学, 学校から職業・社会への移行, 社会階層, ジェンダー, 地域間格差</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	研究演習 I	(29 見原 礼子) 比較教育学, 教育社会学, 移民政策, 地域研究 (ヨーロッパ), 子ども社会学 (30 吉良 史明) 日本文学, 思想史, 美術史 (31 谷川 晋一) 英語学, 生成統語論, 理論言語学 (32 小松 悟) 経済政策, 国際開発, 環境経済学, 持続可能システム (33 原田 走一郎) 言語学, 日本語学 (34 森 元斎) 現代哲学, 社会思想, 自然・人間・文化の思想史, 生の哲学 (35 畑中 大略) 教育行政, 教育経営	
演習科目	研究演習 II	(概要) 「研究演習 I」の成果を踏まえつつ, これを更に発展させるなか で, 研究計画を更新する。この研究計画に基づき, 社会文化研究 系, 言語研究系, 環海日本長崎学・アジア研究系, 公共政策研究系 及び核兵器廃絶・平和学系のうち, いずれかの系 (研究領域) に基 づいて研究課題にアプローチし, 主指導教員及び副指導教員からの 指導を受けるなかで, 「多文化社会的状況」における「問題本質を 見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」のな お一層の高度化を図りつつ, 各自の研究を更に進めていく。 授業到達目標としては, 専門分野の先行研究の収集, 読解, 批判 的検討を継続して行い, 各自の研究の意義や目的を更に明らかにす るなかで, 研究計画を更新し, 研究指導の内容を踏まえつつ, 学位 論文作成に必要な資料やデータの収集, 分析, 考察を継続して行 うことができる力, 分析対象 (多文化社会的状況) に関するより一層 高度な「問題本質の見極め」又は「問題解決に向けた多様な解の提 示」を導出することができる力及び合同中間発表会で, 研究計画及 び成果を的確に発表・説明し学位論文を作成するために必要な研究 を適切に遂行することができる力を養成する。 (1 鈴木 達治郎) 原子力平和利用, 核軍縮・核不拡散, 核セキュリティ, エネルギー・環境, 科学技術と社会 (2 吉田 文彦) 核抑止, 核軍縮・不拡散, 軍備管理条約, 安全保障, 平和 (3 森川 裕二) 国際政治学, 東アジア国際関係 (4 楊 曉安) 実験音声学, 統語論, 語用論, 比較言語学, 方言学 (5 正本 忍) フランス近世史, アンシアン・レジーム, 治安, 統治構造, 社会史 (6 王 維) 人口・移住研究, マイノリティ, 芸能・芸術研究, 文化・宗教・社会意識, 国際社会・エスニシティ (7 西原 俊明) 英語学 (特に, 統語論・動詞意味論), コーパス言語学, 応用言語学	

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	研究演習Ⅱ	<p>(8 井田 洋子) 公共政策, 国家論, 平和学, 政教分離</p> <p>(9 葉柳 和則) ヨーロッパ文学, 文化社会学, 文化表象論, ナラトロジー</p> <p>(10 野上 建紀) 近世考古学, 水中考古学, 陶磁史, 海上交易史</p> <p>(11 鈴木 章能) 英米・英語圏文学, 文学一般, 比較文学, 外国語教育</p> <p>(12 前田 桂子) 方言学, 日本語学, 近世語, 文法学</p> <p>(13 吉田 ゆり) 公共政策 (子育て・子育て環境), 特別支援教育, 臨床心理学</p> <p>(14 首藤 明和) 社会学, 地域研究, アジア社会論</p> <p>(15 木村 直樹) 日蘭交流史, 近世史, 史料研究, 外交史, 政治史</p> <p>(16 針貝 綾) 美術史, 美学・芸術諸学, 芸術一般, 博物館史, デザイン史</p> <p>(17 Guelbeyaz Abdurrahman) 社会言語学, 文化・宗教・社会意識, メディア, 言語教育, 音楽学</p> <p>(18 細田 尚美) 東南アジア地域研究, 国際労働移動, トランスナショナル・コミュニティ</p> <p>(19 才津 祐美子) 文化人類学・民俗学, 文化資源, 文化財・文化遺産, 観光</p> <p>(20 大平 晃久) 文化地理学, 文化遺産, 記憶論</p> <p>(21 波佐間 逸博) 文化人類学・民俗学, 地域研究, 社会学, アフリカ, 地域間比較</p> <p>(22 賽漢卓娜) 家族社会学, 移民研究, 国際結婚, エスニシティ</p> <p>(23 CUTRONE PINO) 語用論, 談話研究, 社会言語学, 教授法, 異文化間コミュニケーション</p> <p>(24 東 史彦) EU法, 国際法, 国際経済法, 国際人権法, 国際機構論</p> <p>(25 滝澤 克彦) 宗教学, 文化人類学・民俗学, 社会学, 地域研究</p> <p>(26 南 誠) 歴史社会学, トランスナショナルリティ, 境界文化論, 歴史と記憶, 本国帰還者 (中国帰国者), 多文化共生</p> <p>(27 COMPEL RADOMIR) 地域紛争論, 沖縄関係学, 比較政治学, 国際政治学, 日本政治史</p> <p>(28 中島 ゆり) 教育社会学, 学校から職業・社会への移行, 社会階層, ジェンダー, 地域間格差</p> <p>(29 見原 礼子) 比較教育学, 教育社会学, 移民政策, 地域研究 (ヨーロッパ), 子ども社会学</p> <p>(30 吉良 史明) 日本文学, 思想史, 美術史</p> <p>(31 谷川 晋一) 英語学, 生成統語論, 理論言語学</p> <p>(32 小松 悟) 経済政策, 国際開発, 環境経済学, 持続可能システム</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	研究演習Ⅱ	(33 原田 走一郎) 言語学, 日本語学 (34 森 元齋) 現代哲学, 社会思想, 自然・人間・文化の思想史, 生の哲学 (35 畑中 大路) 教育行政, 教育経営	
研究 指導 科目	研究指導	(概要) 「研究演習Ⅰ」及び「研究演習Ⅱ」で取り組んだ内容を踏まえ、その成果を更に発展させつつ、博士(学術)の学位に相応しい論点、方法、分析、考察、論証を有した博士論文を作成する。 授業到達目標としては、博士(学術)の学位に相応しい博士論文を作成するための能力を身につけ、特に、自立的に研究を遂行できる卓越した能力又は高度に専門的な職業に従事できる卓越した能力を身につける。 具体的には、①共生と多様性の理論の確立を目指す社会文化研究、②言語・非言語コミュニケーションを通じた相互理解の原理的解決を目指す言語研究、③日本・長崎の視点から、21世紀人文社会科学の土台となる新たな自己-他者関係を構築するアジア研究、④グローバルな公共的価値を形成する公共政策研究、⑤核兵器廃絶の推進に寄与する平和に関する理論的及び実践的研究、のいずれかの研究領域に関して、高度に専門的な知識と独創的能力を身につける。その上で、多文化社会学の高度なレベルでの修得を通じて、「多文化社会的状況」におけるより一層高度な「問題本質を見極める力」又は「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を身につける。 (1 鈴木 達治郎) 原子力平和利用, 核軍縮・核不拡散, 核セキュリティ, エネルギー・環境, 科学技術と社会 (2 吉田 文彦) 核抑止, 核軍縮・不拡散, 軍備管理条約, 安全保障, 平和 (3 森川 裕二) 国際政治学, 東アジア国際関係 (4 楊 曉安) 実験音声学, 統語論, 語用論, 比較言語学, 方言学 (5 正本 忍) フランス近世史, アンシアン・レジーム, 治安, 統治構造, 社会史 (6 王 維) 人口・移住研究, マイノリティ, 芸能・芸術研究, 文化・宗教・社会意識, 国際社会・エスニシティ (7 西原 俊明) 英語学(特に, 統語論・動詞意味論), コーパス言語学, 応用言語学 (8 井田 洋子) 公共政策, 国家論, 平和学, 政教分離 (9 葉柳 和則) ヨーロッパ文学, 文化社会学, 文化表象論, ナラトロジー (10 野上 建紀) 近世考古学, 水中考古学, 陶磁史, 海上交易史 (11 鈴木 章能) 英米・英語圏文学, 文学一般, 比較文学, 外国語教育 (12 前田 桂子) 方言学, 日本語学, 近世語, 文法学	

授 業 科 目 の 概 要

(多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	研究指導	(13 吉田 ゆり) 公共政策 (子育て・子育て環境), 特別支援教育, 臨床心理学 (14 首藤 明和) 社会学, 地域研究, アジア社会論 (15 木村 直樹) 日蘭交流史, 近世史, 史料研究, 外交史, 政治史 (16 針貝 綾) 美術史, 美学・芸術諸学, 芸術一般, 博物館史, デザイン史 (17 Guelbeyaz Abdurrahman) 社会言語学, 文化・宗教・社会意識, メディア, 言語教育, 音楽学 (18 細田 尚美) 東南アジア地域研究, 国際労働移動, トランスナショナル・コミュニティ (19 才津 祐美子) 文化人類学・民俗学, 文化資源, 文化財・文化遺産, 観光 (20 大平 晃久) 文化地理学, 文化遺産, 記憶論 (21 波佐間 逸博) 文化人類学・民俗学, 地域研究, 社会学, アフリカ, 地域間比較 (22 賽漢卓娜) 家族社会学, 移民研究, 国際結婚, エスニシティ (23 CUTRONE PINO) 語用論, 談話研究, 社会言語学, 教授法, 異文化間コミュニケーション (24 東 史彦) EU法, 国際法, 国際経済法, 国際人権法, 国際機構論 (25 滝澤 克彦) 宗教学, 文化人類学・民俗学, 社会学, 地域研究 (26 南 誠) 歴史社会学, トランスナショナルリティ, 境界文化論, 歴史と記憶, 本国帰還者 (中国帰国者), 多文化共生 (27 COMPEL RADOMIR) 地域紛争論, 沖縄関係学, 比較政治学, 国際政治学, 日本政治史 (28 中島 ゆり) 教育社会学, 学校から職業・社会への移行, 社会階層, ジェンダー, 地域間格差 (29 見原 礼子) 比較教育学, 教育社会学, 移民政策, 地域研究 (ヨーロッパ), 子ども社会学 (30 吉良 史明) 日本文学, 思想史, 美術史 (31 谷川 晋一) 英語学, 生成統語論, 理論言語学 (32 小松 悟) 経済政策, 国際開発, 環境経済学, 持続可能システム (33 原田 走一郎) 言語学, 日本語学 (34 森 元斎) 現代哲学, 社会思想, 自然・人間・文化の思想史, 生の哲学 (35 畑中 大路) 教育行政, 教育経営	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ, 適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合類を作成する必要はない。